

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

	事業所名	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	ドリームリフター					公表日 2025年 1月 20日
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		1人あたり3㎡の基準を満たしています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		保育士、児童指導員(教員等)の有資格者で、児童5人に対して1人の職員配置をしています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		視覚的な支援を活用し、子ども達が自分で気がついて行動できるように環境構成をしています。現在スロープや手すりの設置はありませんが、スロープは必要に応じて設置できるよう用意してあります。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		子ども達の活動に応じた部屋の使い方を工夫しています。清潔に関しては子ども達と共にと組んでおり、子ども達の自立の力に繋げていけるようにしています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		必要な時には、申し出があれば安全を確認しつつ活動に応じた部屋の活用が可能です。	子どもの主体性の確保の一方で安全面での配慮が課題となります。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		定期的に職員の打ち合わせをしています。情報の共有をし、同一方向での支援ができるよう努めています。	パート職員は会議参加がしにくいのが課題。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		保護者様のご意見を大切に、今後も業務改善に努めていきます。	意見をいただくと更なる向上につながります。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		研修機会を設け、資質向上のため参加を促しています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	第三者評価は受けていませんが、外部評価は受けたことがあります。	今後も機会があれば受ける予定です。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		研修機会を設け、資質向上のため参加を促しています。	
その他	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		支援プログラムは4月にホームページに公表していますが、分かりづらいようです。今後はホームページ改修と共に、掲示でもお知らせしていきます。	ホームページの改修が課題です。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		いつも保護者の皆様にも5領域に応じた分析をいただき、そのうえで計画を作成しています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		出来た計画案は職員間で意見を出し合い、見直しをしたうえで仕上げています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		計画は個人記録ファイルに挟み込み、常に一体的に確認しながら、毎日の記録をつけています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		アセスメントツール集を参考にしています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		ガイドラインを参考にしながら、個々の状況に応じた支援内容を設定しています。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		様々な角度からアプローチができるよう、日ごろから職員同士で話し合いを行っています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		それぞれの目標を設定し、必要に応じて継続して行う活動と季節や年齢に応じた活動を実施しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		目的に応じ、個別であったり集団であったりの活動及びそのための支援を行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼、夕礼を行い、利用人数や活動内容、注意事項等の統一を全職員で情報共有しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		客観的な視点で物事をとらえて記載し、次の計画につなげるようにしています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		子ども達の課題を常に見極め判断しています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		常に念頭に入れ活動を工夫しています。	地域交流の活動が課題です。様々な形の地域交流があるので、今後も工夫していきます。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		年齢が高く、やがて社会に出ていく子ども達には自己決定の力は課題となっています。こども会議などを活用し、考え実行する力を更につけさせていきたいと考えています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的には関わりが最も多い職員が参加するようにしていますが、場合によっては客観視できている職員等、その都度適切な職員を見極めて参加しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じ連携を取らせていただいています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		はい。特に送迎時間については、データでやり取りを行っています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じ、連携させていただいています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		必要な場合は、相談支援事業との連携の下、情報の伝達をしています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じて助言をいただき、日々の関わりの中に反映させています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		年齢が高いので児童クラブとの連携はありませんが、スポーツ振興会の指導の下、地域の皆様とのスポーツ交流を行っています。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		大山市自立支援協議会子ども部会に所属し、研修会や子ども達の交流事業を企画運営しています。	市内の放課後等デイサービス事業所職員が月1回集まり、研修会や行事(交流会)企画等を行っています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		家庭が基盤と考え、申し出があればいつでも対応し、保護者様と一緒に悩み解決をしたいと思います。必要に応じて講座や座談会などの企画を行っています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		入所時には丁寧に説明し、その後は必要に応じて対応しています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		子ども自身の考えと共に、保護者の皆様にも課題を出していただいで計画作成に結びつけています。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		個別面談の時間を設けて説明をし、署名をいただいています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		電話・来所必要に応じて家庭訪問での相談をいつでも受け付けています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		コロナ禍で、一時休止していた対面での総会も現在では再開し、各種行事も復活して来ています。御兄弟も参加できる内容となっておりますので、ぜひご参加ください。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情に関するお問い合わせは、重要事項説明書に記載してあります。いつでも対応させていただきますが、小さなすれ違いが大きくなる前に解決していきたいと思えます。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		LINE・ホームページ・ブログ等で情報を発信しています。新しいホームページが今少し不具合を起こしています。調整中ですので、今しばらくお待ちください。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報は十分に注意して取り扱っております。学校等の関係機関との連携の際には、保護者様に同意書を頂いた上で、情報を共有する事があります。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		そのお子様や家族の状況に配慮しながら進めています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	○	地域の高齢化などで、交流の機会が絶たれてしまいました。今後新たな関係づくりを構築していきます。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		緊急時、感染時のマニュアル（ぼんぼネットワークの安全対策）は玄関ホールに用意してあります。また緊急時には直接のご連絡をしたり、災害・感染等に対するお手紙を必要に応じ配布しています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		今年度は、市役所の防災担当者の皆様による、東南海地震を想定した様々な取り組みを体験しました。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		定期的に医療情報をいただき、年2回の面談時にも確認をしています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師からの指示書（コピー）の提出をお願いしています。エピペンの使用法は医師よりの直接指導を受けています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		食・衛生・感染・災害・交通など様々な分野での安全に関する安全計画を作成し、職員間で周知しています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		当事業所は特に自力通所の子どもが多いので、家族との連携で、子ども達の安全を守っています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例を活かし、安全安心に活動ができるよう心がけるとともに、危険予測力を向上させていきます。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止に関する研修会を法人内で定期的に行っています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束に関する研修会も法人内で定期的に行っています。その内容は、個別支援計画にも記載し、年2回の面談時に保護者の皆様と共に確認をしています。		